

## 令和2年度 駒沢中学校関係者評価委員会 報告書

2020年度は、新型コロナウイルス禍によって世界中の都市がロックダウンの措置や我が国では緊急事態宣言が出され、東京オリンピックの延期を始めあらゆる行事やイベントが中止となりました。その中で駒沢中学校も春先には約2ヶ月の休校が行われ、その他、多くの部活動の休止や学校行事が開催できない困難な学校運営となりました。こうした状況下での「学校関係者評価」の実施と、今回、アンケート調査の質問項目と内容が多く変更されたことから、過去の評価結果と単純に比較検討が出来ないことをご理解ください。

令和2年度駒沢中学校関係者評価委員会で実施した学校関係者評価の結果および提言を、次のとおりご報告いたします。

### 【令和2年度学校関係評価】

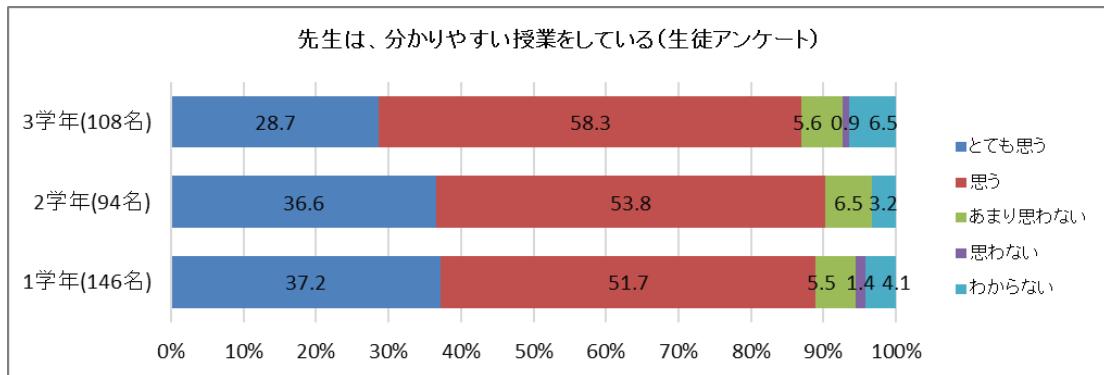
■アンケート実施期間：令和2年10月8日～11月5日

■回収数(率)

	生徒	保護者	地域の方
配布数(人)	363	363	47
回収数(人)	348	309	25
回収率	95.8%	85.1%	53.1%

### 1 学習指導について

学習指導に関する項目では、生徒アンケート「先生はわかりやすい授業をしている」の肯定的評価（とても思う、思う）が88.7%、「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫している」という肯定的評価も87.1%で、今年度は昨年度までのアンケート項目の表現が変更になっているので単純比較はできないが、少なくとも9割近い生徒が先生の授業を肯定的に評価している。（昨年度は「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫してわかりやすい授業をしている」の肯定的評価が82.4%）



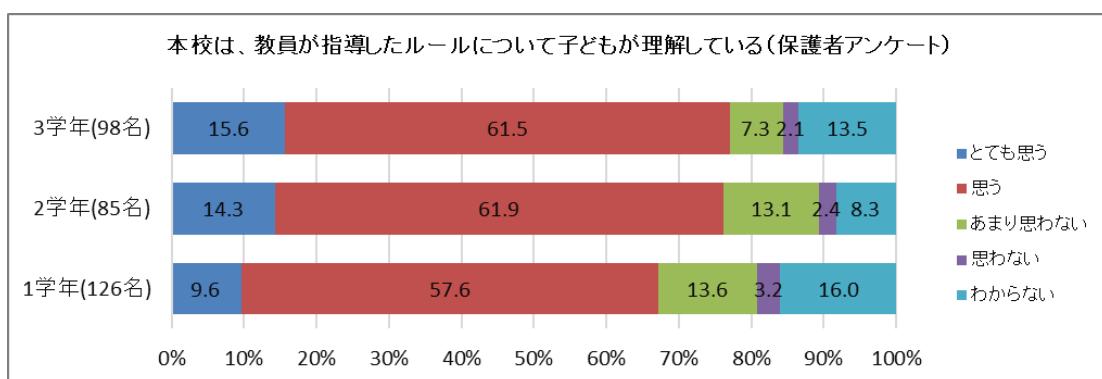
同様に、生徒評価「授業では、生徒の話し合いや発表などの機会がある」の肯定的評価が90.7%である。これらのことから学校の重点目標のひとつである「主体的に学ぼうとする態度を養い、豊かな知力と健やかな身体を育成する」の達成に向けて、学校経営の基本方針のひとつ「授業の中で言語活動や『主体的、対話的で深い学び』を充実させて、思考力・判断力・表現力・課題解決能力を向上させる。特に、4人組話合

い活動の充実をめざす」の具現化の表れと考える。

生徒評価「先生は、映像やタブレットなどのＩＣＴを利用している」の肯定的評価 89.6%は、教育のデジタル化の進展と重要性の流れの中において、頼もしい評価数値である。しかし、その一方で「私は、家庭で宿題や e-ラーニングなどで学習している」の肯定的評価 51.7%、否定的評価（あまり思わない、思わない）43.9%、同じく、保護者評価「子どもは家庭で宿題や e-ラーニングなどで学習している」の肯定的評価 44.1%、否定的評価 51.8%の数値を示している。コロナ禍に於けるステイホームによる家庭学習やリモート学習の重要性が叫ばれる中で、家庭の期待を背景に、学校の役割の大きさを再認識するとともに一層の努力に期待するところである。

## 2 生活指導について

生徒アンケート「私は、学校のルールについて考えて行動している」の肯定的評価 92.5%は昨年度 86.4%より 6.1 ポイント上がった。「私は、先生が指導したルールについて理解できる」の肯定的評価 85.7%は高い評価である。この 2 項目から生徒が先生方に対して信頼していると思われる。この信頼関係を継続していただきたい。しかし、保護者アンケート「本校は、教員が指導したルールについて子どもが理解している」の肯定的評価が全体では 73.5%だが、その中で 1 年生の肯定的評価は 67.2%でやや低い。また、「本校は、子どもや保護者が相談しやすい」の肯定的評価 75.5%は昨年度 64.6%より 10.9 ポイント上がったが、1 年生の肯定的評価 65.3%で低い。1 年生は、新型コロナウイルス感染予防のためステイホーム中に中学校生活が始まり、そのため、保護者にとっては、生徒が中学校生活で先生方の指導を理解しているのか不安に思っていると考えられる。先生方には、1 年生保護者の不安等に対して気軽に相談できるように努めていただきたい。



地域アンケート「本校の生徒は、地域において落ち着いて生活している」の肯定的評価 92.0%と高い評価である。

今年度は、今まで経験したことのないコロナ禍での生活指導で大変だったと思われる。先生方は、今まで以上に生徒と保護者並びに地域の方々との信頼関係を築いていただきたい。

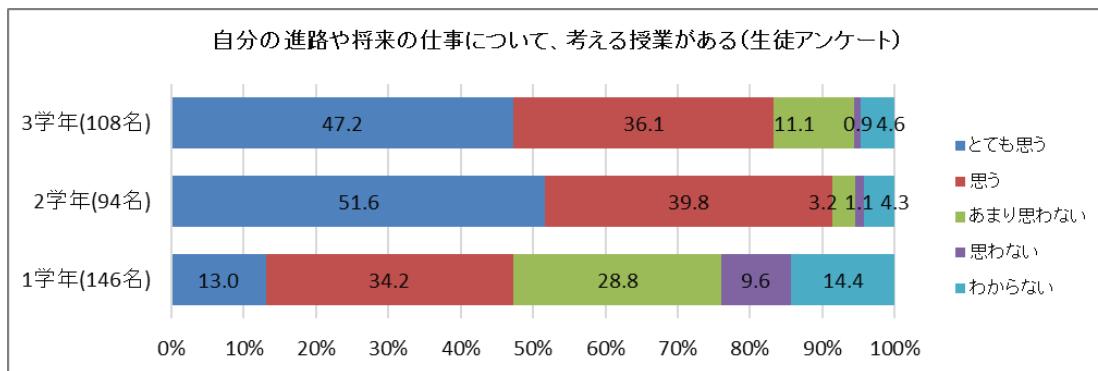
## 3 進路指導について

生徒アンケート「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」は、3 年前はすべての学年で肯定的評価が 80%を超えていたが、一昨年は 1 年生が 50.9%、昨年度は 48.4%と半数を割り、今年度は 47.2%と更に低下している。これはコロナ禍で入学の時期が大幅にずれ、授業時間が減ってしまったことと関連があるのかもしれない。しかし、同質問に対する上級生の肯定的評価は、2 年生が 91.4%、3 年生が 83.3%と非常に高い。

昨年度の肯定的評価が 2 年生が 77.8%、3 年生が 76.2%だったことを考えると、この厳しい状況下で学校が大事なキャリア教育の授業の確保に努めていたことがうかがわれる。

また、「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」の肯定的評価が、1 年生が昨年度 40.9%

から今年度 53.4%に大幅に上がっていることも喜ばしい。2年生の 79.6%は、今年度中止となった「職場体験」が実施できていれば、もしかしたら数字はより上がったのかもしれない。来年度は実施できることを期待する。

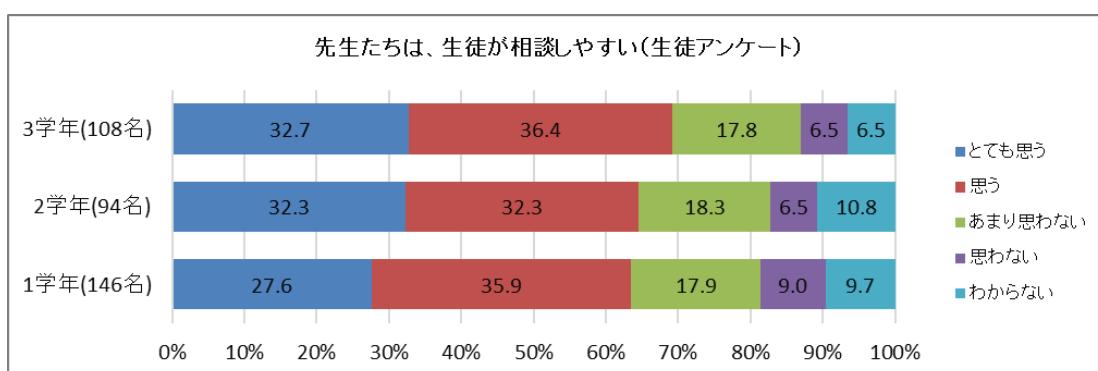


保護者アンケート「本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある」は、昨年度は「本校は、子どもに将来の生き方や進路について考えさせる指導が充実している」という若干文言が違う質問であったが、昨年度は肯定的評価が3年生保護者 61.1%、2年生保護者 64.3%、1年生保護者 49.3%だったことを考えると、このコロナ禍でそれぞれ 75.0%、79.8%、56.8%と大幅に上昇したことは評価に値する。また、「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している」に関しては、3年生保護者の肯定的評価が昨年の 58.3%から 67.3%に上がっていることは、困難な学校運営の状況にあっても学校側が生徒や保護者に対し情報発信に努めていたからにちがいない。

#### 4 教職員について

生徒アンケート「先生たちは、生徒に分かりやすく指導している」、「先生たちは生徒が相談しやすい」では、全体的には 85%、65%の生徒が肯定的評価である。否定的評価は、8%の生徒が分かりにくさを、5%の生徒が相談しにくさを感じているということが見てとれる。

学年のばらつきはないので、なかなか自分から先生に相談ができない生徒が一定数いるということが推測できる。



保護者アンケート「本校は、子どもや保護者に分かりやすく説明している」、「本校は子どもや保護者が相談しやすい」では、75.1%、74.4%の保護者が肯定的評価であった。先生方が丁寧に説明していることがうかがえる。

本校の独自項目である「教職員の応対におけるマナーや態度などはしっかりしている」でも、90.5%の保護者が肯定的評価で、好意的なアンケート結果が出ている。

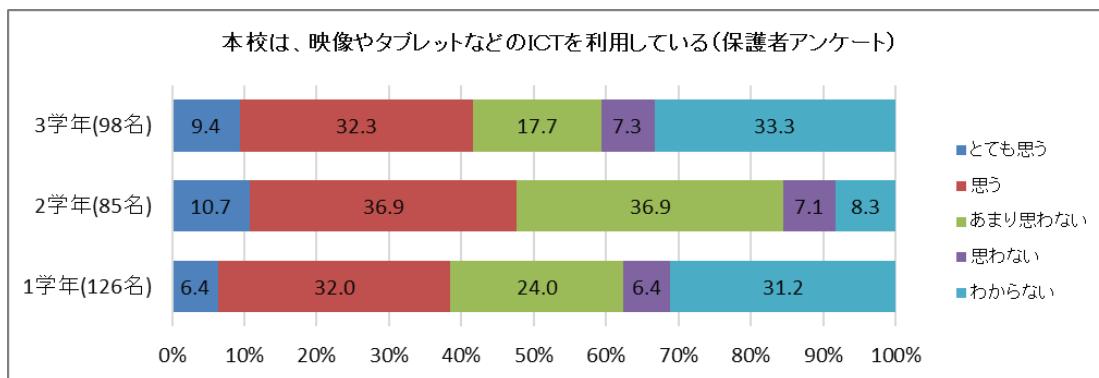
## 5 総括

今年度も「学校関係者評価」は生徒、保護者、地域に分かれて評価が行われた。まず、生徒の総合評価は、肯定的評価（わからないを除く）は78.3%（昨年度81.7%）であった。特に、90%を超えた高い回答は、「授業では、生徒の話し合いや発表などの機会がある」（90.7%）と「私は、学校のルールについて考えて行動している」（92.2%）の2項目である。否定的評価が高いのは、「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある」（57.2%）の質問項目で「わからない」の回答も19.7%となり、この項目だけ極端に評価が低い結果であった。生徒アンケートの全項目の「わからない」の回答は平均6.1%である。

保護者の総合評価は、肯定的評価（わからないを除く）は76.1%（昨年度77.8%）となった。一番高い評価は「本校は、学校・学年だよりなどで、保護者に情報を提供している」（91.4%）で、この項目の「分らない」の回答は1.3%（昨年の近い質問項目、2.3%）と一番低くコロナ禍の中で情報収集の必要性が高くなつたことがうかがえる。評価の特に低い回答は2項目あり、「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用している」（41.9%）、否定的評価は32.5%で「わからない」が25.4%と高い。もう1項目は「子どもは、家庭で宿題やeランニングなどで学習している」（44.0%）で、否定的評価は51.5%であり、家庭内でのことであり「わからない」は5.9%と低い。

地域の評価は、肯定的評価（わからないを除く）は80.5%（昨年91.8%）で、「わからない」は9.1%であった。一番高い項目は「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」（100%）である。一番低い評価は「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」（64.0%）で、「わからない」も一番高く24.0%であった。

今回のアンケート調査結果の特徴は、「わからない」の回答が例年より多く、特に保護者の「わからない」の回答が最高31.5%（質問項目；「本校は、黒板の書き方やプリントなどの工夫がされている」）を始め、20.0%を超える「わからない」の回答が41項目中13項目で、平均13.6%（昨年1.4%）となるなど、コロナ禍の不要不急の外出自粛の影響が大きく、駒沢中学校の運営に関する充分な情報共有が学校関係者に出来なかつたことがうかがえる結果となった。



## 6 更なる改善の努力課題(昨年度の努力課題)

- (1) タブレット、ICT活用の状況やeランニングの学習に対する理解を進める取り組みが必要である。
- (2) コロナ禍において、感染防止及び衛生環境の向上に努め、さらなる安全・安心の学校経営・運営に努めること。
- (3) 今後も保護者・地域の方の来校機会が制限されることを踏まえ、一層の情報発信、共有に努めるとともに、特に1年生の生徒・保護者については不安解消の手立てを講じていく。